



第2回 瀧田 隆義
Takayoshi Fuchida

元女子美術大学大学院
Former Graduate School of Joshibi University of Art and Design

私と色彩学との出会い 50年 (照明と色彩)

My Encounter with Color Science: Lighting and Color

私は大学時代、電気工学科所属に関わらず電気は全く苦手で嫌い、幸い視覚の見え方に関する研究室が唯一あり、そこに飛び込んだことから照明・色彩との関係が始まった次第です。その後、就職を考えた頃、色彩や照明の研究をやっているところなど日本にあるのだろうかと思っていたのですが、世界的研究者森礼於博士(森鷗外の孫)がおられることを指導教授から知らされ、無礼にも森礼於さんに直接アポイントを取り、川崎の東京芝浦電気(現(株)東芝、以下東芝と表記)総合研究所を訪問して森礼於さんに直接お会いしました。何の実力もない私の自己アピールに対して、間違いなく森礼於さんはこの無学な学生は何言っているのかと思われたと確信しています。

東芝にこだわった理由は、東芝の創業企業の一つ旧東京電気におられた宗正光博士が大正時代に日本で初めて人の視感度を測定し、CIEが比視感度関数を標準化(1924)するための重要データの一つを提供した偉業や、その後、戦前戦後、日本の色彩学の祖の一人である東堯博士と愛弟子森礼於博士は両輪となって日本の色彩科学を牽引していたことが主因です。

1974年東芝入社後、森礼於博士が色彩学会の会長(1978-1979, 1992-1993)など要職を務められ私には直ぐに会員になれとほぼ業務命令でした。色彩学会入会后50年、私は色彩学会から多くの有能な大学研究者・企業技術者など貴重な方々との大切な出会いの場を与えていただきました。

当時は蛍光灯とHIDランプが主流で照らされた物体の色をさらに美しくすることが大命題でした。照明された物体色の見え方を数値化するというのは簡単そうですが、視覚の明順応・色順応、光源の分光分布、物体の分光反射率との複雑な関係で極めて難しく、1950年代からCIE各国で研究が進められ、日本では東芝が中心になって研究していました。私が入社した頃には既に基本的な数値化方法がCIEで標準化(演色性評価方法第一版)されていましたが、見え方とのズレはまだ大きく、改善が求められていました。日本では森礼於さんが中心になり私は補助研究をしながらCIEへの新しい評価方法を探りました。

東芝グループ定年後の2011年、経緯があって女子美術大学大学院に移り、大学院前期・後期(博士課程)の指導を8年間勤めました。美術大学らしい研究テーマと色彩学との関係について学生達と研究活動を進め、彼女達には色彩学会全国大会、支部大会、研究会での発表を義務付け、いろいろ成果を出すこともできました。

照明光源の演色性は美術館・博物館照明に深く関係しており、特に日本画など50lx以下の低照度下での鑑賞が義務付けられた環境では、演色評価数で保証された見え方は得られず、低照度下の実質的演色性を評価する必要がありました。熱意ある優秀な博士課程学生がそのテーマを担当し、低照度下での絵画の見え方を大きく改善する新しい演色性評価方法を提案して、色彩学会論文賞や研究奨励賞、照明学会論文賞をいただくことができました。

色彩学会会長時代(2014-2015)の一番の思い出、というよりもそのために会長を引き受けた訳ですが、任意団体であった色彩学会を一般社団法人化する作業でした。しかし色彩学会内(理事会)も任意団体のままでよいなど様々でした。社会の流れから法人化は必須と判断し、嫌われ者にもなりましたが(笑)、何とか「一般社団法人日本色彩学会」にたどり着くことができました。その後、矢口博久実行委員会委員長(千葉大学名誉教授)のご尽力によって2015年に一般社団法人日本色彩学会としてAIC中間大会を日本に招待し、大成功利に開催できたのも会長時代の良き思い出です。

若い会員の皆さんへのアドバイスです。全国大会などでの発表だけでなく、「懇親会」には可能な限り参加されることをお勧めします。発表は一時的なものです。懇親会は様々な会員と密な関係を築くことができます。私も会社業務で学会に参加できず懇親会だけのために大阪まで駆けつけたこともありましたが(皆さんから瀧田さんは何しにきたのか?と笑われましたが)。

現在ご活躍の学会員、理事会の方々はずいぶん色彩学会をさらに将来にわたって活発に盛り上げていただくことを切に期待いたします。深謝!

筆者略歴：慶應義塾大学工学部卒、工学博士(慶大)、カナダ国立研究所客員研究員(1982-1983)、女子美術大学大学院教授(2011-2019)／東海大学・東京理科大学・法政大学非常勤講師を歴任。

〔職歴〕東京芝浦電気(株)総合研究所入社(1974-)、東芝ライテック(株)研究所(1989-)にて映像機器、照明機器・光源の色彩に関わる研究開発、その他技術統括責任者等に従事。

〔学会・委員会〕日本色彩学会会長・日本照明委員会会長・照明学会東京支部長、経済産業省照明機器省エネ規格委員会座長・経済産業省総合資源エネルギー調査会委員・日本工業標準調査会委員を歴任。